

保険・年金 フォーカス

欧州 2021 年保険ストレステスト(1) —EIOPA が第 5 回目の EU 全体の保険の ストレステストの実施内容を公表—

取締役 保険研究部 研究理事 中村 亮一
TEL: (03)3512-1777 E-mail: nryoichi@nli-research.co.jp

1—はじめに

EIOPA（欧州保険年金監督局：European Insurance and Occupational Pensions Authority）が、5月7日に「2021年の保険ストレステスト」の実施内容を公表¹した。

保険ストレステストは、不利な財政的及び経済的状況における欧州保険市場の耐性力を評価し、市場の脆弱性を特定する。今回はあくまでも実施内容の公表であり、その結果の公表については2021年12月に行われることが予定されている。

今回のストレステストにおいては、「より長期のより低い」金利環境での長期化する COVID-19 シナリオに焦点を当てている。欧州システミック・リスク理事会（ESRB）と協力して開発されたシナリオでは、世界中の信頼に影響を与え、経済的縮小を長引かせる COVID-19 パンデミックの経済的影響を評価する。ストレステストは、対象会社の資本への影響と流動性ポジションの両方を評価する。

このレポートでは、今回のストレステストの実施内容について、EIOPA の公表資料に基づいて報告する。まずは、今回のレポートではその全体的な概要を報告し、次回のレポートでシナリオやショックの具体的内容を報告する。

なお、今回のレポートの図表は、全て EIOPA による技術仕様書（Insurance Stress Test 2021 Technical Specifications）²からの抜粋及びその筆者による翻訳である。

2—ストレステストの概要

ストレステストは通常の監督ツールであり、その定期的な実施については、EIOPA の規制の中で規定されている。EIOPA は過去に 4 回（2011 年、2014 年、2016 年、2018 年）のストレステストを行っており、今回のストレステストは 5 回目となる。

¹ https://www.eiopa.europa.eu/content/eiopa-launches-its-2021-insurance-stress-test_en
https://www.eiopa.europa.eu/insurance-stress-test-2021_en

² https://www.eiopa.europa.eu/sites/default/files/financial_stability/insurance_stress_test/insurance_stress_test_2021/2021-stress-test-technical-specifications-v1.1.pdf

今回のストレステストの目的と概要は、以下の通りとなっている。

1 | 目的

2021 年のストレステストは、保険会社が深刻ではあるがもっともらしいショックに耐えられるかどうかに関する情報を監督者に提供するために、資本と流動性の観点から不利なシナリオに対する参加者の耐性力を評価することを目的としている。

「合否判定テスト (pass-or-fail test)」ではないが、2021 年のテストには主にマイクロプルーデンスアプローチがある。これにより、EIOPA は業界に推奨を行うことができ、監督当局は、耐性力を向上させるために、必要に応じて保険会社に是正措置を講じるよう求めることができる。

マイクロプルーデンス評価は、規定されたショックに対する広範な反応によって引き起こされる保険セクターからの潜在的な波及効果の推定によって補完される。

なお、EIOPA 副会長である Peter Braumüller 氏は、「このストレステストは、経済危機の余波や不確実性の高い時期に発生する可能性のある不利なシナリオに対して、欧州の保険会社のソルベンシー及び流動性ポジションの耐性力を評価するため、特に重要である。このシナリオは、深刻ではあるがもっともらしいショックを反映しており、欧州の保険セクターの耐性力に光を当てる結果をもたらすだろう。ただし、このテストは合否判定テストと見なされるべきではない。」と述べている。

2 | 概要

(1)シナリオとショック

2021 年のストレステストでは、「より長期のより低い」金利環境での長期化する COVID-19 シナリオに焦点を当てている。

ESRB と協力して開発されたこのシナリオでは、COVID-19 パンデミックの進化の可能性と、世界中で信頼への悪影響を引き起こし、経済的縮小を長引かせる COVID-19 パンデミックの経済的影響についての継続的な懸念について詳しく説明している。「ナラティブ (narrative)」は、保険業界に深刻ではあるがもっともらしい「ダブルヒット」効果を生み出す一連の市場及び保険固有のショックに翻訳されている。

シナリオとショックの詳細については、EIOPA 2021 ストレステストの ESRB アドバースシナリオ、技術情報及び技術仕様書に規定されており、次回の保険年金フォーカスで報告するが、ここでは全体像を述べておく。

2021 年のシナリオでは、保険会社のバランスシートが負債と資産に「ダブルヒット」することになる。リスクフリーレートが低下し、保険会社の負債が増加する一方で、リスクプレミアムは、株式や不動産を含む全ての資産の価格修正と同時に増加する。

保険固有のショックについては、生命保険では、死亡率の増加と契約の大量解約、損害保険では、健康保険を含むパンデミック関連の引受における保険金のインフレにストレスをかける。

流動性テストでは、保険料の減少と再保険フローの減少でストレスをかける。

資本ショックは 2020 年末の貸借対照表に即座に適用されるが、流動性分析ではショック前の流動性ポジションとイベントの 90 日後のポジションが考慮される。

(2)構造

2021年ストレステストの構造は2つあり、参加者のポジションを2つの観点から評価することを目的としている。

- ・2018年と同様に、承認された改善された方法論に基づく資本（自己資本（OF）、ソルベンシー資本要件（SCR））
- ・承認されたアプローチ及び現在のCOVID-19の流動性評価で得られた経験に基づく（簡素化された）流動性

2つのコンポーネントは、共通の説明、共通のシナリオ、共通の一連のショックに基づいているが、ショックの適用、データ収集、評価及び開示の観点から明確に分離されている。下記の図表が、2つのコンポーネントの構造を示している。

資本コンポーネント

- ・市場ショックと保険ショックを組み合わせたシナリオ
- ・アプローチ:
 - ・瞬間的なショック
 - ・固定貸借対照表(事後対応型の経営行動無し)
 - ・貸借対照表(ガイド付きの事後対応型経営行動)
- ・メトリック:
 - ・貸借対照表ベース(負債に対する資産の超過額)
 - ・ソルベンシー・ベース(OF、SCR)

流動性コンポーネント

- ・アプローチ:
 - ・瞬間的なショック
 - ・固定貸借対照表(事後対応型の経営行動無し)
 - ・貸借対照表(ガイド付きの事後対応型経営行動)
 - ・スタイル設定されたフローベースの評価
 - ・ストックベースの評価
- ・タイムホライズン:
 - ・90日
- ・メトリック:
 - ・流動性の源泉／流動性需要

(3)アプローチ

2021年のストレステストでは、資本と流動性の観点から、欧州保険業界の耐性力を評価する。

- ・資本評価はソルベンシーIIフレームワークに依存している。
- ・流動性評価は、流動性ポジションの持続可能性の推定に基づいている。
参加者は、次の2つの仮定の下で自分のポジションを推定する必要がある。
- ・固定貸借対照表
- ・制約付き貸借対照表

この2つは、以下に述べる「経営行動」の取扱いを除いて、全ての要素で同じ仮定を使用する。

① 固定貸借対照表

公平な競争条件を達成し、ストレス後の結果がストレスの瞬間的な性質を反映することを確実にするために、参加企業は、参照日以降の将来の行動（例えば、リスク除去戦略及び再建計画の文脈で取られる将来の行動）を取ることに依存する措置、行動、又はリスク軽減戦略を考慮に入れるべきではない。このシミュレーションでは、埋め込まれた経営行動のみを考慮し、リアクティブなストレス後の経営行動は適用しない。

② 制約付き貸借対照表

特定の境界内で、リアクティブな経営行動が、ストレス後の貸借対照表の計算において、考慮する必要がある場合において、そして、もしストレス後のソルベンシーと流動性ポジションの計算で要求

される場合（例えば、リスク回避戦略と再建計画の文脈で取られる将来の行動）に、制約付き貸借対照表アプローチに向けて、固定貸借対照表の仮定を緩和することを意味する経営行動を含める。

ここで、適用される事後的経営行動については、以下の条件を満たす必要がある。

- ・グループ（リスク管理計画、投資戦略、再建計画など）によって採択されるガバナンス・フレームワークの一部であるべきであり、このテストにおいて特別に定義され実施されるものでない。
- ・既に計画され承認された配当の分配は、固定貸借対照表アプローチに含まれなければならないが、制約付き貸借対照表アプローチでのみ緩和することができる。
- ・参加者によって適用される事後経営行動は、適切かつ妥当でなければならないが、その評価は、事前検証及検証プロセスの中心的な構成要素となるべきである。ストレス後のリアクティブな経営行動は、現実的かつ比例的である必要があり、実施に要する時間やそれから発生する費用を考慮に入れる必要がある。会社、潜在的な二次的影響（例えば、市場での資産の入手可能性や広範な売却に対する価格下落の可能性）も考慮に入れた上で、ストレスシナリオの不利な条件の下でストレス後の経営行動を実際に実施できるかどうか、またどのように実施できるかについて、信頼できる説明を提供できるべきである。これに対し、外部資本増強は、たとえ参加者の再建計画に含まれていたとしても、ストレスシナリオにおいて実施される可能性は低く、いずれにしても、この措置のコストは、その説明に含まれている疲弊した市場及び経済状況を反映すべきである。
- ・適用される経営行動、具体的な質問票（資本と流動性の要素に特化した定性的な質問表）を通じて質的に明確に文書化され、措置の規模及びストレス後の貸借対照表、ソルベンシー及び流動性ポジションへの限界的な影響に関する情報を定量的に提供しなければならない。
- ・流動性が中央レベルで管理されている場合には、グループ内流動性取引は組込型の経営行動とみなし、固定型貸借対照表に含めるべきであり、単独レベルで管理されている場合には、潜在的流動性関連のグループ内流動性取引は事後対応型の経営行動とみなし、制約付貸借対照表に含めるべきである。

なお、アプローチの詳細については、技術仕様書に規定されている。

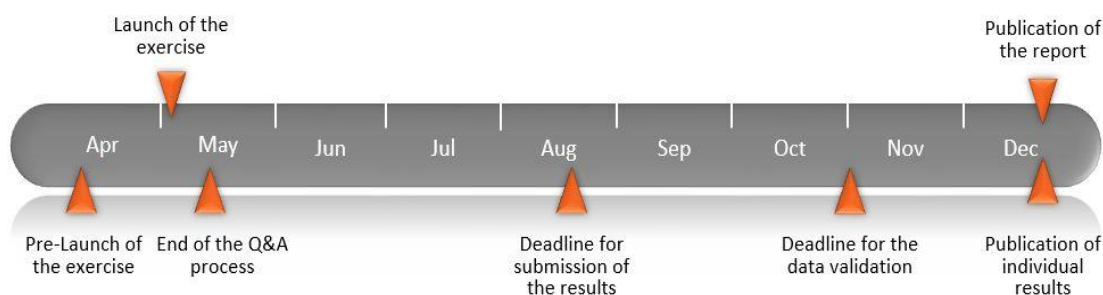
(4)参加会社（対象範囲）

今回のストレステストは44の欧州の保険グループを対象としている（前回の2018年のストレステストでは42の欧州の保険グループが対象となっていたので、これを若干上回っている）。

会社は、規模、EU全体の市場カバレッジ、実施された事業分野（生命保険及び損害保険事業）、代表的な管轄区域の数、及び第2段階では現地の市場カバレッジ、に基づいて選択された。合計で、各国監督当局と協力して定義されたターゲットサンプルは、ソルベンシーIIの総資産に基づいてEEA（欧州経済領域）の75%をカバーしている。

(5)スケジュール

全体の作業工程は、以下の図表の通りとなっている。



1. 準備段階

EIOPA は、ストレステストパッケージの準備中に、関連する利害関係者及び参加者に相談した。

- ・1月中旬から3月末まで：EIOPA は、利害関係者（保険ヨーロッパ、AMICE（欧州相互保険会社・協同組合協会）、CRO フォーラム、CFO フォーラム、欧州アクチュアリー協会）及び参加者とテストの主要要素について技術的な議論を行った。
- ・4月中旬から5月中旬まで：EIOPA は、参加者との質疑応答の形で協議を行い、説明を提供し、ストレステストパッケージを改善した。参加者は、2021年5月10日までに、ストレステストに関する説明の要求を各国の監督者に提出できた。

2. 計算フェーズ

- ・テストの開始（2021年5月7日）から NCAs（National Competent Authorities：国家監督当局）への結果の提出期限（2021年8月10日）まで、参加者は所定のシナリオに従って結果と指標を計算するよう求められる。

3. 検証フェーズ

- ・8月中旬から10月末まで：結果の品質保証は、ローカル品質保証と中央品質保証に分割される。検証期間中に、参加者は説明を提供するか、結果の一部を再提出するように求められる場合がある。

4. 結果の分析

- ・11月と12月：結果の分析とレポートの起草

5. 結果の公表

2021年ストレステストの結果は、2つの形式で12月に公開される。

- ・集約されたデータに基づくレポート
- ・資本ベースの指標のサブセットの公開（参加者の同意による）

3—ストレシシナリオ(2021年)のナラティブ

今回のストレステストにおける「より長期のより低い」金利環境における長期化する COVID-19 シナリオの「ナラティブ (narrative) (物語)」は、以下の通りとなっている。

不利なシナリオでは、COVID-19 パンデミックの進展の可能性とその経済的影響に対する継続的な懸念が、世界的な信頼感への悪影響を引き起こし、経済的縮小を長引かせる。それに伴う経済見通しの悪化は、長期リスクフリーレートがすでに歴史的な低水準から世界的に低下していることに反映されている。経済の減速は GDP の持続的な低下をもたらし、シナリオのホライズンにおける実質

的な事業縮小と企業のデフォルトにより、EU の失業率の大幅な上昇につながる。これらの動向は、マクロ経済の高い不確実性と相まって、総需要、消費者信頼感、家計の債務返済能力に悪影響を及ぼす。資産価格の長期にわたる下落は、家計部門の金融資産をさらに浸食し、消費の伸びを圧迫する。

企業収益が減少する中での市場参加者の期待の再評価は、金融資産評価の突然かつ大規模な調整につながる。市場のボラティリティーが急上昇し、資産収益率の相関関係が高まり、非金融企業部門のデフォルトが広まるとの予想に基づいて借入コストが急増する。市場参加者のリスクセンチメントの変化は、新興市場国からの大幅な資本流出を引き起こし、世界中の経済活動の減速をさらに悪化させている。世界経済の成長の縮小がさらに長引くと、EU の輸出、投資、消費に引き続きマイナスの影響を及ぼす。これは、国内の不利な要因と相まって、収益の急激な縮小に耐えている企業部門にさらに負担をかけ、事業の大幅な縮小と企業の倒産につながる。

既に高水準にある企業部門の負債は、利益の急激な減少と相まって、企業部門のバランスシートに圧力をかけている。企業債務の持続可能性に対する懸念の高まりは、企業の信用スプレッドの拡大と信用基準の引き締めにつながり、企業による投資や事業の資金調達へのアクセスを制限する。様々なセクターへの影響は非対称であり、最も大きな打撃を受けたセクターは、封じ込め措置によって最も深刻な影響を受けるセクター（例えば、旅行、航空輸送、宿泊サービス、食品、映画及びメディア）と、供給能力の急激な減少を経験するセクター（例えば、繊維やアパレルなどの労働集約型製造に従事する部門、又は自動車などのグローバルバリューチェーンに強く依存する部門）である。

商業用及び住宅用不動産市場の活動の減速は、急激かつ大幅な価格修正を引き起こす。商業用不動産セクターは、ロックダウンと大規模なテレワークにより、特に厳しい状況に直面している。所得の低下と失業率の上昇により、特に政策支援がない環境では、住宅所有者が住宅ローンを返済することが難しくなっている。その結果、住宅ローンのデフォルトが大幅に増加し、住宅用不動産価格に下方圧力がかかる。

4—その他の事項

1 | 対象範囲

2021年ストレステストは、以下のように要約される EIOPA によって中央で定義された一連の基準に基づき、NCAs に従って選定された欧州の大規模保険グループを対象としている。

a) 前回のテストとの安定性

2018年ストレステスト（英国に居住するグループを除く）のグループを含める。

b) 関係管轄区域の拡大

a) に加え、管轄区域毎に、当該管轄区域域に居住する総資産に基づく最大のグループ

NCAs は、規模、事業の種類、リスク・エクスポージャー、金融の安定性の観点からの全体的な関連性に基づき、自らの管轄区域内に居住するグループのリストの変更（代替／包含／除外）を提案する可能性があった。

このプロセスにより、44 の事業体が特定され、総資産ベースで欧州の保険市場の 75% をカバーし

ている。

参加しているグループの完全なリストは、次ページの図表の通りである。Brexit（英国のEU離脱）により、今回のテストには英国の会社は含まれていない。

（参考）2021年保険ストレステスト 参加グループ会社

Entity name	Domicile	Entity name	Domicile
Vienna	AT	Groupama	FR
Ageas	BE	Natixis	FR
KBC	BE	Croatia Osiguranje	HR
Allianz	DE	MetLife EU Holding	IE
Münchener Rück	DE	Sjova-Almennar	IS
HDI	DE	Assicurazioni Generali	IT
R+V	DE	Gruppo Intesa Sanpaolo	IT
Alte Leipziger - Hallesche	DE	Poste Vita	IT
PFA	DK	Unipol	IT
Forsikringselskabet Danica	DK	Lombard International	LU
The Ethniki Hellenic	EL	QIC Europe Limited	MT
Vida Caixa	ES	NN	NL
Mapfre	ES	Aegon	NL
OP Osuuskunta	FI	Achmea	NL
Sampo	FI	Kommunal Landspensjonskasse	NO
AXA	FR	Storebrand	NO
CNP Assurances	FR	Gjensidige	NO
CAA	FR	Powszechny Zaklad Ubezpieczen	PL
BNP Paribas Cardif	FR	LongRun Portugal	PT
SOGECAP	FR	Skandia Försäkringsgrupp	SE
Assurances du Credit Mutuel	FR	Nordea Life	SE
Covéa	FR	Skupina Triglav	SI

2 | 評価基準日

2021年の保険ストレステストの基準日は、2020年12月31日である。基本ケースは、基準日における参加者のストレス前の財務状況であり、NCAsに提出される2020年ソルベンシーIIグループ報告書と完全に一致している必要がある。ストレス前及びストレス後の評価は、ソルベンシーIIフレームワーク及び技術仕様書に従って、指定された基準日に行う必要がある。

3 | 方法論

EIOPAのストレステストは、ソルベンシーIIの枠組みを共通の基盤として、不利な進展に対する保険業界の耐性を評価している。ソルベンシーIIは、貸借対照表とソルベンシー・ポジション（OF及びSCR）の評価と報告に関する共通の原則を提供しており、ベースライン・ポジションの比較可能性を確保し、ストレス後の資本ポジションを再計算するための指針としての役割を果たしている。

市場ショックと保険固有のショックは、基準日の貸借対照表に対して一回限りのショックとして適用されると仮定される。説明を適切に反映し、その適用が均質であることを確保するため、参加者は、資本コンポーネントにおけるストレス後のバランスシート及びソルベンシー・ポジションを計算する際に、特定の順序に従ってショックを適用することが求められる。

- ・ステップ1：市場ショックの適用
- ・ステップ2：保険固有のショック（解約、死亡及び請求費用へのショック）の適用

全ての保険固有のショックは、同時に適用されるように設計されている（特定の順序は必要ない）。参加者は、規定されたショックに対する最良推定前提を修正し、1回の技術的準備金の再計算を行うことが求められる。

ショックの適用に関する仕様は、資本と流動性の評価において異なる可能性がある。流動性コンポーネントの構造とその仕様及び簡素化を考慮すると、ショックの適用順序は関係ない。

4 | 報告内容

報告テンプレートは2つの構成要素に分割され、それぞれ1つの定性的質問によって補完される。

4-1 | 資本コンポーネント

ベースラインシナリオとストレスシナリオの下での結果を報告するための一連のテンプレートは、ソルベンシーIIのQRT（定量的報告テンプレート）報告に広く基づいている。テンプレートの内容に関するガイダンスは、監督報告付属書IIから入手できる。

参加主体は、提供されたスプレッドシートに報告テンプレートを記入する。報告テンプレートは、次の3つのセクションで構成される。

- a. ベースラインシナリオ
- b. ストレスシナリオ
- c. リアクティブな経営行動を伴うストレスシナリオ

なお、参加主体には、定性的なアンケートへの記入も要請される。

NCAがショックを受けたUFR（終局フォワードレート）の影響のシミュレーションを求めることを選択した場合、NCAによって異なる指定がされていない限り、参加者は追加のシミュレーションを記入した同じテンプレートを提出することが要求される。

収集した情報の一部は、個別に、参加主体の同意を得て、かつ集計して開示する。

資本コンポーネントの報告テンプレートは、以下の図表のように構成されている。

Description	Baseline (0)	Scenario without reactive management actions - Fixed Balance Sheet (FBS)	Scenario with reactive management actions - Constrained Balance Sheet (CBS)
Participating entity information		P.Participant	
Basic information - general		P.Gen	
Indicators		Indicators	
Balance sheet reporting template as per QRT data for Groups	0.BS	FBS.BS	CBS.BS
Impact of long term guarantees measures and transitionals as per QRT data for Groups	0.LTG	FBS.LTG	CBS.LTG
Own funds as per QRT data for Groups	0.OF	FBS.OF	CBS.OF
Calculation of Solvency Capital Requirement as per QRT data for Groups	0.SCR.SF	FBS.SCR.SF	CBS.SCR.SF
Solvency Capital Requirement - for groups using the standard formula and partial internal model as per QRT data for Groups	0.SCR.PIM	FBS.SCR.PIM	CBS.SCR.PIM
Solvency Capital Requirement - for groups on Full Internal Models as per QRT data for Groups	0.SCR.FIM	FBS.SCR.FIM	CBS.SCR.FIM
Asset characteristics	0.Assets	FBS.Assets	CBS.Assets
Liabilities description	0.Liabilities.Char	FBS.Liabilities.Char	CBS.Liabilities.Char
Miscellaneous	0.Misc	FBS.Misc	CBS.Misc
Status of the template		Status of the template	

アンケートの目的は、ストレステストの影響の要因に関する追加的な洞察を提供することであり、グループから提出された「数字の背後にあるストーリー」に取り組むことが求められる。

アンケートは、特にストレス後の SCR 計算のためのストレス後数値の計算のための単純化と近似の使用もカバーしている。

アンケートの特徴的な部分は、事後対応的な経営行動を指し、その行動の選択と適用に関するさらなる洞察と包括的な理解を提供することを目的としている。

アンケートは、固定貸借対照表アプローチ及び制約付き貸借対照表アプローチの下での主要な測定指標に対するプロセス及びストレス後の影響に関する定性的及び定量的情報をカバーしている。

4-2 | 流動性コンポーネント

ベースラインシナリオとストレスシナリオの下で結果を報告するための一連のテンプレートは、第2の方法論ペーパー³と、EIOPAの流動性モニタリングで得られた経験に基づいている。

参加グループは、特定された関連単体毎に1つの流動性テンプレートを収集し、NCAsに提出すべきである。報告テンプレートは、次の2つのセクションで構成される。

- a. フローテンプレート (ベースラインシナリオとストレスシナリオの結果)
- b. スtockテンプレート (ベースラインシナリオとストレスシナリオの結果)
- c. アンケート

フローテンプレートでは、QRT S.05.01 から始まる 90 日間の期間にわたる会社のネット・キャッシュポジションに関する一連の情報が収集され、次の項目から生じる流入と流出に焦点が当てられる。

- ・ 生命保険事業 (UL (ユニットリンク) / IL (インデックスリンク) 事業を除く)
- ・ UL/IL 事業
- ・ MA (マッチング調整) とリングフェンスポートフォリオ
- ・ 損害保険事業
- ・ 投資
- ・ 他のフロー

テンプレートでは、投資フローが参加者の資産配分に与える影響に関する情報も収集される。

5 | 結果の開示

EIOPA は、2021 年のストレステストの結果を公表するにあたり、保険契約者と一般市民に対する透明性を高めるという目標を追求する。2018 年に提案された内容に沿って、ストレステストの開始に関する欧州会計検査院の勧告に従って、2021 年のストレステストの結果の通知は 2 倍になる。

- ・ 自己資本と流動性の双方をカバーする集計データに基づく報告書の公表
- ・ 資本に基づく指標のサブセットの公表 (参加者の同意を得て)

個別開示の要求は、事後的な経営行動の適用の有無にかかわらず、グループの貸借対照表に対するシナリオの影響のみを対象とすることを明確にしておく価値がある。ソルベンシー・ポジション (OF

³ https://www.eiopa.europa.eu/content/eiopa-publishes-second-paper-methodological-principles-of-insurance-stress-testing-focus_en

このペーパーの概要については、保険年金フォーカス「[EIOPA が保険ストレステストの方法論の原則に関する第 2 のペーパーを公表 – 流動性リスクへの対応](#)」(2021.5.10)で報告した。

及び SCR) やストレス前後の流動性ポジションの開示は想定されていない。

個別開示を求める根拠は、市場規律を改善すること、すなわち、分析及び結論の信頼性を高め、データ及び結果の質を向上させることにある。さらに、個々の開示は、ストレステストに参加している事業者がストレステスト実施後のフォローアップを行うことを支援し、その事業者の結果を他の事業者の結果と比較（「競合他社を知る」）し、結果の独自の評価（フォローアップを含む）を公衆に直接提供する能力を向上させる。

結果の公表について同意しない参加主体の結果については、個別に把握できない範囲で集計する。

パブリックレポートには、収集された情報に基づく資本指標（バランスシートやソルベンシー等）と流動性指標の完全なセットが含まれる。EIOPA は、集計結果を提示する際に、個々の参加者から得られた数値を推測したり再計算したりすることを避ける。

ストレステスト・レポートには、通常のソルベンシー II 報告義務に沿った長期保証（LTG）措置及び移行措置のストレス前後の影響に関する開示が含まれる。

個々の開示に対する同意を収集するプロセスは、検証フェーズ後に開始される。参加者には、開示すべき指標のテンプレートが提供される予定であり、そのテンプレートには、経営行動の適用の有無にかかわらず、ベースライン・ポジションとストレス後のポジションが記入されている。この一連のデータに基づいて、参加者は同意を表明する必要がある。EIOPA は、共有された個々のデータのみを、公開に同意した参加者のために同じフォーマットでウェブサイト上に公表する。

5—まとめ

以上、今回のレポートでは、EIOPA が 2021 年 5 月 7 日に公表した「2021 年の保険ストレステスト」の実施内容について、EIOPA の公表資料に基づいて報告してきた。

2014 年及び 2016 年のストレステストにおいては、低金利環境の継続が保険会社の財務状況に及ぼす影響が大きな関心の的となっていた。2018 年のストレステストにおいては、引き続き長期にわたる低金利シナリオも考慮されているが、一方で、金利の急減な反転に伴う解約増加リスクや死亡率の低下に伴う長寿リスク、さらにはサイバーリスクへの対応という観点からのシナリオ設定にも重点が置かれる形になっていた。

今回の 2021 年のストレステストにおいては、「より長期のより低い」金利環境での長期化する COVID-19 シナリオに焦点を当てている。欧州システミック・リスク理事会 (ESRB) と協力して開発されたシナリオでは、世界中の信頼に影響を与え、経済的縮小を長引かせる COVID-19 パンデミックの経済的影響を評価することになる。また、今回のストレステストは、対象会社の資本への影響と流動性ポジションの両方を評価することになっている。

なお、今回のストレステストの結果については、参加グループ各社が拒否するのでなければ、その個別の結果が公衆に開示されることになっている。これにより、透明性の確保がより一層図られていくことが期待されている。

次回のレポートで、今回のストレステストのシナリオ等について、より詳細な内容を報告する。

以上